

平成 28 年度 第 4 回 子ども権利委員会会議録

I. 開催日時平成 29 年 2 月 8 日（水）

II. 場 所：名張市役所庁議室

III. 出席者：子ども権利委員会 委員長、副委員長、委員 7 名

事務局：福祉子ども部次長、子ども家庭室長、子ども家庭室員 3 名

IV. ぱりっ子すくすく計画（第 4 次：H30～32）策定について

【質疑・意見交換】（○：委員 ⇒：事務局）

⇒ 資料をご覧ください。アンケートの実施日を 29 年 5 月としています。アンケートの集計をいたしまして、29 年 7 月中旬頃に計画見直し案の検討にお集まりいただきたいと思っています。アンケートの内容は変えないのが基本路線ということですのでよろしいですね。

○ はい。

○ 保護者・教職員・児童生徒に性別を尋ねていますが、それは後に分析上必要となるわけですか。

⇒ 資料では男女比で分けているものはないですね。分析上必要がないのであれば、削除することもできますが、どうでしょうか。

○ 名張市だけではなく、三重県全体でこの性別の捉え方が大きな課題となっています。はっきりと調査をしたことはありませんが、身体と心の性別が一致しなくて悩んでいる子どもたちがいないとも限りませんので、必要でないということであれば、外していただいた方がありがたい。

○ 子どもが○を付けるときに、苦しい思いをするのはどうかと考えます。統計では男女区別なく分析していますので、なくてもいいかなと思います。

○ 子どもの権利委員会という立場では、学年でたった一人でもそういう思いを抱く子どもがいるなら、考えた方がいいと思います。

○ お父さんがどう思っているとか、お母さんがどう思っているという考え方がなかったですね、今までは。子どもに関わることでお父さんの意識、お母さんの意識という物が分かったほうがいいという意見もあります。

⇒ 子どもに関しては、性別は質問事項からはずす、保護者の方については今後分析上必要になる可能性はあるので外さないかという議論ですね。

○ ぱりっ子すくすく計画を策定するうえで、そこに反映される項目でないならば必要でないと思います。

⇒ では今回のアンケートについては、男女項目は全部外すという事でよろしいですか？

○ はい、結構です。

⇒ 全部のアンケートから性別質問事項を削除いたします。

⇒ 別の部分でご意見をお願いいたします。

○ 保護者用の質問で「家庭で何か決めるときに子どもの意見を聞いていますか」という項目がありますが、これに対応する設問が子ども側にはないのですが、どうでしょう？

○ 「家庭での決め事」と限定しているので、子どもに対しても「意見を聞いてもらっていますか？」という共通の設問があってもいいと思います。保護者と子どもが同じ設問で数字が変わってくるかもしれません。

⇒ では、子どもの設問に項目を追加いたします。

○ 回答欄で「その他」がありますが、その後ろに（具体的に）をつけたほうがいいと思いますが。「その他」欄があると、真剣に考えることなしに安易にそれに○を付けてしまう場合もあると思うのです。

⇒ 小学校2年生は負担が大きいという事で省きますが、それ以外は全て追記します。

○ どんな声が上がってくるか、聞いてみたいです。

○ 小学校の校長先生等にお伺いすると・家庭の経済状況が子どものメンタルや生活に影響をあたえているという話を聞きます。「あなたは次の中で疲れること、不安に思う事がありますか」という設問で「親のこと」とまとめてしまっているのかなと思うのですが。

○ ほかの欄では「学校の部活動のこと」や「学校の先生のこと」など具体的になっていますが、ここも、もうすこし具体的でもいいかもしれないですね。

○ 選択肢が難しいですね。親のことと家庭のことをどう区別するのか、子どものなかでは難しい。

⇒ 親・兄弟姉妹・祖父母など、家族との関係性を尋ねているのが「親のこと」、貧困のことをはじめ、気にかかる項目として、「家の生活のこと」と分けてもいいのかなという気がします。

○ 「家庭のこと」と「学校のこと」で項目を作るというのはどうでしょうか？

⇒ では、この設問は、二つに分けて20項目聞けるように変更しましょうか。

そこに掲げる項目をもう一度ご検討ください。経済問題は出ていましたが。

○ 「お金のこと」では直球すぎるかな。

⇒ 「家の生活のこと」、「親のこと」、「兄弟姉妹のこと」というところまでとどめておきましょうか？

○ 「親」とするのはどうでしょう？里親や実親がいても養護学園で生活している子どももいる状況で。

⇒ そうしたら、「親のこと」と「兄弟姉妹のこと」については「家族との関係」、「学校のこと」と「家庭のこと」で小項目に分けて、その中で「家族の関係」「家の生活のこと」で修正してみます。

○ 「子どもの権利の中で大切だと思うものはどれですか。2つ選んでください。という設問がありますが、全て大切なことでだと思うのですが。2つ選ぶことに意味がありますか。

○ 大人と子どもの意識の差を見るためによくある手法ですね。

⇒ 「あなたが特に大切だと思うものを2つえらんでください。」とします。

○ ばりっ子会議の項目ですが「参加したくないと答えた人に聞きます。参加したくない理由は何ですか」とありますが、子どもたちはこの会議に参加する仕方を知っているのでしょうか？参加したいけど参加の仕方が判らないので「参加したくない」でいいやとなるのではないですか。

参加したい→参加の仕方が判らない→参加したくないとなるのでは？

○ 前回の中学生の回答で、「その他」が24.5%というのも多分そういうのがあるのでしょうか。参加の案内はどういう方法ですか。

⇒ MIK運動が各小中学校に、チラシで案内しています。

○ ばりっ子会議に参加してくれる子どもさんは、PTA役員のお子さんが多いように思います。チラシを配ったところで、どんな行事を行っても集まらないんです。まず、チラシを見ない、関心がない。保護者さんも忙しいですし、お子さんも習い事や塾があり、土日も試合があるとかで、毎回集めるのが本当に大変で最終的に役員に声をかけるしかない。

○ 今はPTAが主になってしてくれているのですか。

⇒ MIK運動の事務局をPTAの事務局に置いているので、PTAの会議の席でもばりっ子会議への参加をお願いしています。

参加してくれた子どもさんたちはとっても良かった、と言ってくれるので、もう少し浸透してくれるとありがたいのですが。今年の会議は40名で当日のイベントには400名ほどの申込があり、抽選になりました。

ばりっ子会議への参加人数自体はとくに規定はありません。イベントの方はすごく人気があるので、いつも抽選になります。

⇒ はじめは、市長に政策提言をするということからスタートして、今は「ばりっ子モール」というイベントの企画という風になってきました。

○ 子どもの居場所みたいな感じになってきたのですね。

⇒ そうですね。

○ やっぱり参加したいという子はいらるし、参加したいけれどもその仕方が判らないという子もいると。

- ばりっ子会議は子どもの視点で名張市の改善点を市長に提言し、実際に解決できたところからはじまり、現在はイベントだけに走ってしまっている。そのイベントも参加者が抽選になるという、子どもの為の本来の趣旨に沿ったものなのか、どうも違うような気がします。
- ⇒ まず、運営側の人間を集めることが本当に大変で、本来ならば来ていただいたすべてのお子さんに楽しんでもいただくのが一番ですけど、安全面やその他の事を考えると、主催者側の人数に合わせた受け入れ人数となってしまう。せっかく、あれだけのお子さんが行きたいと思ってくれるイベントってとても貴重なのもう少しうまくやっていたらと思います。
- ⇒ いただいたご意見は、一つが本来のばりっ子会議に戻すべきでは、ということと、もう一つは参加したいひとが抽選になるイベントというのが、子ども条例の施策の一環として必要なのかという事だと思います。
- 例えば、千人位集まるのなら、ADS ホールなどで、もっと子どもたちが喜ぶ行事をすることのほうが、参加者を絞って何かすることより、本来の子どもらのために、ということになるのではないかとずっと思っています。
- ⇒ その辺について、事務局でも検討させていただき、委員長に経過報告も含めて相談させていただきます。

- ⇒ 本日はアンケートの最終チェックという事で、たくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。平成 28 年度第 4 回子ども権利委員会はこれで修了させていただきます。ありがとうございました。